

ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま結成集会

政権に迎合し、政権への批判と監視機能が弱体化しているメディアの危機に対し、市民はどのように向き合えばいいのか

記念講演

「安倍政権とメディア」



はら しん

講師：原 真さん 共同通信社 編集委員

1985年共同通信社入社。文化部記者、ニューヨーク特派員、富山支局長などを経て現職。著書に『テレビの実像』『テレビの履歴書』『巨大メディアの逆説』などがある。

と き 2019年9月23日（月・祝日）14:00～

ところ サンシップとやま 701号室

参加費 1000円

連絡会結成の趣旨

安倍政権下で強まるメディアコントロールや、各メディア間における分断状況が深まるなかで、本来、市民の知る権利に応え、権力を監視すべきメディアジャーナリズムの役割と機能が弱体化しつつあります。そのことが様々な歪みを増幅させ、この国の民主主義そのものを衰退させていないでしょうか。

その一方で、様々な圧力や利害関係からの独立性を保ちながら、私たちの知る権利や要望に応え、物事の本質に迫る真摯な報道も見られます。

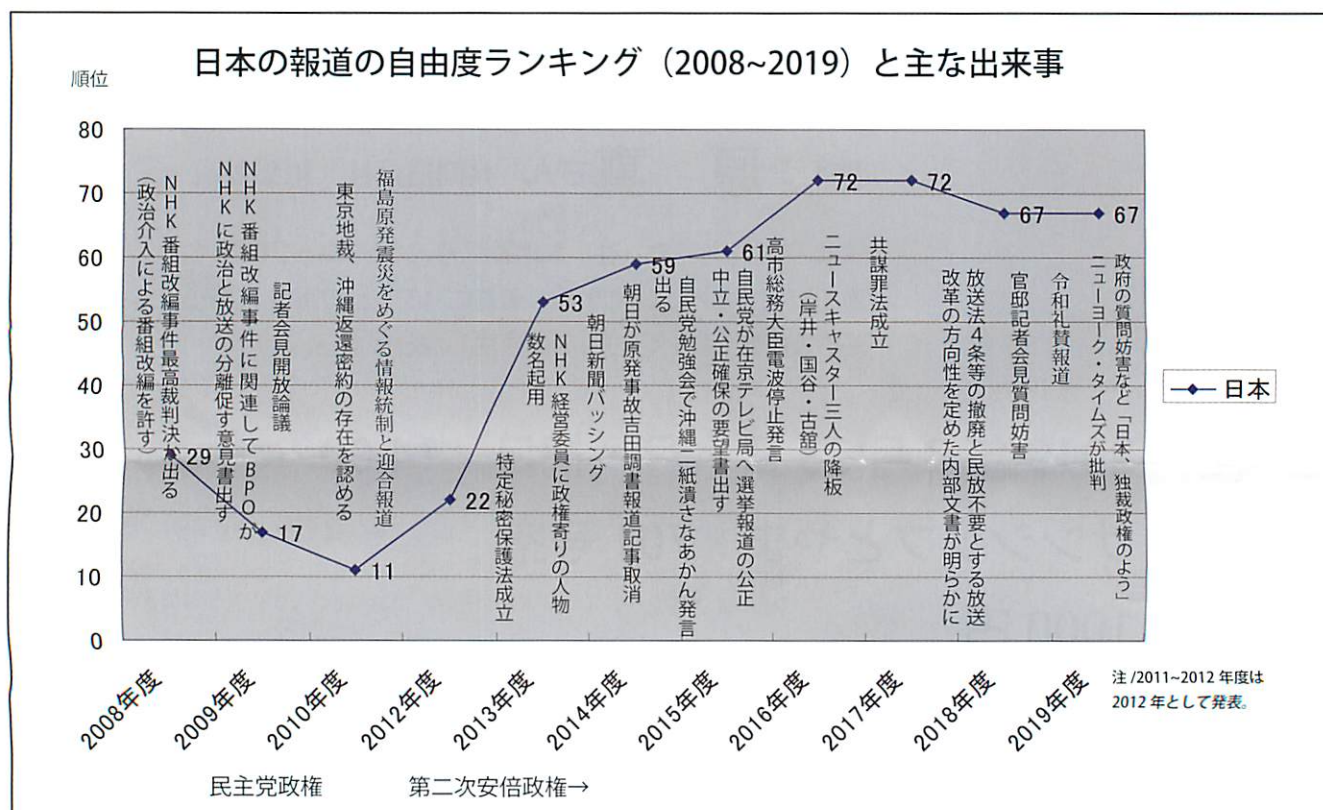
かつて、日本は、メディアを巻き込み「大本営発表」で戦争への道をひた走りました。そのようなことを再び繰り返すようなことがあってはなりません。

この状況に危機感を抱き、メディアジャーナリズムの確立に向けた、市民とジャーナリストが共に考える場を富山でもつくることが差し迫った課題と考え、「ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま」を設立します。

主催：ジャーナリズムを考える市民連絡会 とやま（準） ☎ 090-4680-6336

2019 年日本の報道の自由度ランキング 67 位

ご存知でしょうか。2019 年日本の報道の自由度ランキングは世界 180 カ国中 67 位、先進国首脳会議 G 7 の中で最下位。第二次安倍政権になり急激にランキングを落としています。民主主義にとって「報道の自由」は不可分であることを考えれば、見過ごすことができない段階に来ていないでしょうか。ちなみに 2019 年の当ランキングにおいては、韓国は 41 位、台湾が 42 位となっています。



★報道の自由度ランキングとは 国際ジャーナリスト団体「国境なき記者団」が各国のジャーナリスト、法律家、人権活動家へのアンケートに基づき作成した報道の自由度を国別にランキング化したもので、2002 年から毎年発表を行っている各国の報道の自由度を示す指標である。2019 年の対象国は 180 カ国。質問項目は、意見の多様性、政府、宗教等からの独立性や、政府、特定団体から嫌がらせを受けていないかなどの質問項目を基準にして採点している。なお、自由度ランクを 5 つに分け（下の表）、日本は 2013 年以降、ランク 3 の「顕著な問題」がある国とされている。2016 年に調査した国連人権専門家デビット・ケイ氏の報告にも日本の表現の自由・報道の自由が重大な危機に瀕していると指摘されていることも、あわせて確認しておきたい。

5 つの報道の自由度ランク

ランク 1	1 位～15 位	良好な状況
ランク 2	16 位～43 位	満足できる状況
ランク 3	44 位～109 位	顕著な問題
ランク 4	110 位～161 位	困難な状況
ランク 5	162 位～180 位	深刻な状況



日本マスコミ文化情報労組会議が主催した FIGHT FOR TRUTH ! 私たちの知る権利を守る 3.14 首相官邸前行動のプラカード。